

室神山

学校便り
令和元年7月19日号
江津市立江津東小学校長 安食 徹

おかげさまで、令和元年度の1学期が無事終了しました。保護者並びに地域の皆様方、そして関係諸機関・諸団体の皆様方には、江津東小学校の1学期の教育活動に対しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと誠にありがとうございました。これから、子どもたちが楽しみにしていた長い夏休みに入ります。子どもたちは、主に家庭や地域で過ごすことが多くなります。今後とも見守り・声かけ等にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



6月18日(火)の全校朝礼で話したこと

玉江大会の表彰をし、玉江大会やこれまで2ヶ月の活動について、全校児童で健闘を労い合った後、次のような内容を話しました。



さて1学期が始まってもう2ヶ月以上が過ぎました。早いですね。これまで、様々な行事や学習がありましたね。その中で、皆さんは江津東小学校の児童として、いつもみんなで団結し、素晴らしい姿を見せてくれました。『感謝・尊敬・寛容』の心を大切に、素敵な東っ子として成長していることを大変嬉しく思います。

今日は、寛容について話します。寛容で大切なことは、大きな心で人を許す力を育てることです。人を許すのは大変な勇気がいることです。この前、昼の放送で『ごめん

んなさい 言えるあなたは 勇気ある』という人権標語が紹介されましたが、相手の『ごめんんなさい』を受け止め、受け入れて、許すということは、それ以上に勇気があることなのです。たくましい心を育て、勇気を持って人を許せる強い人になってください。

題名は忘れてしまいましたが、昔読んだ本の内容を紹介します。

『許せない』ということはない。それは自分は悪くない、絶対に相手の方が悪いと思いつける頑固な心から出ている言葉だ。「絶対に許したくない」「許してやらないぞ」という強い意志を表している。許すも許さないも全部自分の意志だからだ。だから『許せない』ではなく『許さない』が正しい。『許せない』と言っている間は、自分は被害者のままであり、「誰だって、私と同じ目に遭ったら許せないはずだ。ああ可哀想な私!」と自己を正当化し、可哀想に思い、自己憐憫を繰り返している悲劇のヒロインの状態だ。『許したい』と決めた途端、許す理由が見つかり始めるものだ。

『許せない』は被害者の道を歩む人がよく使います。全部が自分以外のものの責任だと考え、自分は被害者で、このことの解決については無力だと主張します。全て相手が解決するべきだと考えるのです。『許さない』は主人公の道へ向かう一歩目です。許すも許さないも、自分が決めることなのだと自覚できているからです。そして『許したい』と思いつ始めたとき、主人公の道に入ります。許す理由が見つかり始めるのです。心の重荷が軽くなり、心の自由を感じられるようになっていきます。日常では、様々なトラブルの中で、腹が立つこと、悲しいこと、いろんな心揺れる出来事が起きますね。でも、それも仲間がいてこそ体験できることです。どうか、寛容の心を持って、許し合い、支え合い、感謝と尊敬の思いの溢れる素晴らしい残りの期間にしていってください。それがたくましい心を育てていくことにつながるのです。

水泳学習開始

6月18日(火)から、水泳学習が開始されました。まだ水は少々冷たく感じますが、

子どもたちは気持ちよさそうに水中の感覚を楽しんでいました。楽しみながら、学習に取り組み、しっかりと泳力を身につけていってほしいと思います。これから、夏休みにかけて、水に関わる事故が多くなるのではないかと懸念されます。水の事故から身を守るという意味でも、泳力は大切な要素となります。気温等の条件に大きな影響を受けませんが、できるだけプール学習の機会を確保し、水泳指導を充実させていきたいと思っています。



救急法講習 給食試食会



6月25日(火)の授業公開日に合わせて、救急法講習が行われました。6年生も参加し、真剣に講習を受けていました。一人一台のダミーを使っての心臓マッサージ、人工呼吸法の実技の講習でした。AEDの講習も受けました。チームで役割を分担し、何度

も練習を行いました。命の大切さ、救急処置の重要性について学ぶ貴重な機会となりました。いざという時に勇気を持って行動できることが何よりも大切だと感じました。

また、1年生の給食試食会も行われました。保護者の方々を迎えて、子どもたちはとても嬉しそうに給食を食べていました。1年生の保護者対象に、福富奈保子栄養教諭(郷田小学校)による食に関する指導についての講義もありました。心身の健全な成長のために大切な『食』について、望ましい食習慣や知識を子どもたちがしっかりと身につけていってほしいと思います。学校でも今後引き続き、食に関する指導をしていきたいと思うので、これからの著しい心身の成長を支えることができますよう、ご家庭においてもご協力、ご指導の程よろしくお願ひいたします。

赤ちゃん登校日(5年生)



最後の赤ちゃん登校日を6月28日(金)に開催しました。多くの方々に足を運んでいただきました。本当

にありがとうございました。3回目の出会いなので関係が一層深まり、子どもたちは積極的に、赤ちゃん家族に関わることができていました。この体験学習を通して、たくさんのことを学びとることができたと思います。子どもたちにとって深い、心に残る貴重な体験となったに違いありません。このような貴重な経験の機会を与えてくださった高塚人志先生、赤ちゃんとその家族、江津市子育てサポートセンターの皆様を始め、ご協力いただいた多くの皆様に改めて感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

緑の少年団 樹木観察(4年生)

7月1日(月)に、もりふれ倶楽部の方々に来ていただき、緑の少年団の活動として、樹木観察を行いました。今年度は4年生が本校を代表し、緑の少年団の県大会で実践発表をすることになっています。これまで長年取り組んできた森林や河川についての学習は、どれも子どもたちに自然の大切さについて多くのことを気づかせてくれたことと思います。もともと自然が大好きな年代の子どもたちです。これからも、自然から多くのことを学び取ってほしいと思います。



地区懇談会

7月2日(火)3日(水)に本校校区4地区で地区懇談会が開催されました。「夏休みのくらし」をもとに気をつけなくてはならないことなどが確認されました。夏休みは、子どもが家庭や各地域で過ごすことが多くなります。安全に過ごせるよう、生活リズムが乱れないように、見守りとご指導をよろしくお願いいたします。

また校区には、海、川、J R、国道9号線等があり、命に関わる事故の危険性もあります。今年バイパスの開通以降、交通量や車の流れが変化しています。工事の箇所も多くあり、交通事故の危険性が高まっているように感じます。十分に気をつけてほしいと思います。特に夏休みの事故は、前半に集中する傾向があるようです。生活パターンの変化や夏休みに入った解放感から、つい気が緩んでしまうからかもしれません。学校でも危険への判断力や回避能力を育成するための安全教育、安全指導に力を入れていきます。子どもたちにとって充実した夏休み、楽しい思い出いっぱいの夏休みになりますよう、ご家庭、地域の皆様方におかれましても、子どもの安全につきまして、格別の見守りとご指導をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

避難訓練

7月10日(水)の2校時に火災を想定した避難訓練を行いました。私語もなく、全校児童が真剣な表情で取り組むことができました。全員が出火場所も覚えており、放送をよく聞いて避難行動をとることができたと感じました。



児童集会

7月10日(水)には2年生が、17日(水)には5年生が、児童集会で発表をしました。2年生は絵本『さる・るるる』の朗読や、それをもとに作った2年生バージョンの『さる・るるる』を大きな声で動作をつけて発表しました。5年生は赤ちゃん登校日で学んだことと合唱を披露しました。それぞれ堂々とした態度で発表でき、後の感想発表でも沢山の手が挙がりました。ずいぶん緊張したと思いますが、大きな自信にもなったことだろうと思います。



終業式で話したこと

～前略～毎年話しますが、命と時間と夢(希望)は、実は同じものだと思います。命がなくなれば、時間も夢もなくなってしまいます。そこでストップです。夏休みは楽しいけれど、危険もいっぱいです。交通事故や水の事故など、十分に気をつけてください。安全については家族としっかり話し合っ、校外生活の決まりを守り、大事な自分の命を守ってくださいね。また、時間がなくなるということも、命をなくしています。夏休みの39日という時間を大切に、遊びや勉強、いろいろなチャレンジをして、成長のために役立ててほしいと思います。そして、夢(希望)を失うということは生きる意味を失うということです。どうか「夏休みの終わりにはこうなりたいな」などの具体的な夢をもって、それを追いかけてみてください。みんなの夏休みが、素敵な生きた時間の詰まったものになるよう願っています。

では、最後にいつもの宿題を出します。一つ目は一日一回『親切など、自分が善いと思うことを人に内緒でやる』ということです。二つ目は『感謝日記』です。一日の終わりに「ありがとう」と言いたくなること、感謝の種を見つけてほしいと思います。高学年は三つ、中学年は二つ、低学年は一つ、毎日見つけてください。そうすると、きっと元気が出ると思います。感謝して幸せになる力がつきます。そして、今回初めて、三つ目の宿題を出します。今から児童会執行部の人たちに劇で伝えてもらいます。私がいつも言っている、『感謝・尊敬・寛容』の中の『寛容』につながる内容です。執行部も一生懸命に頑張ってくれますので、本気で見てください。できればそれを心にとめ、夏休みに挑戦してほしいと思います。

児童会執行部による劇

同じ『ゆるす』でもいろいろな字があります。【許す】【赦す】【恕す】どれも「ゆるす」と読みます。なぜ字が違うのでしょうか。今日はこのことについて考えてみましょう。

『Aさんが友達の大事にしているものを壊してしまい、必死で「ごめんなさい、ごめんなさい」と謝る』という場面を今から劇で演じます。

被害者の道歩いている許さない役B「あ～あ、絶対に許さないからな。とつても大事にしてたんだから。弁償したって許してやるもんか。おい、どうしてくれるんだ。元に戻せよ!」などと文句を言い続ける。(ひどくなると恨みになり、仕返しまでするようになると加害者になってしまいます)

Aの気持ち「ああ、どうすればいいんだろう。取り返しのつかないことをしてしまったかも。すごく怒っている。もう友達でいてくれないかな。」

主人公の道歩いているゆるす役

許す役C「とつても悲しいけど、しかたない。そんなに謝っているんなら、許してあげる。その代わりに今度やったら絶対だめだよ。わかったね。」

Aの気持ち「ほっ、良かった。許してくれた。でもこれから気をつけなくちゃ。」

赦す役D「うーん、残念だけど、いいよもう。いつかは壊れるんだから、こんなことで、君とほげんかしたくないからね。」

Aの気持ち「ありがとうございます。これからは気をつけるからね。絶対に！これからもずっと友達でいてね。」

恕す役E「うーん、残念だけど、いいよ、いいよ、古くなってたから、君が壊さなくてもそろそろ壊れてしまったと思うよ。」

Aの気持ち「ありがとうございます。悲しいはずなのに、そんな風に言ってくれるなんて、とつても嬉しい。君は本当に優しいね。これからもずっと友達でいたいよ。」

『許す』は、許可とか免許証とかの言葉に使われています。きちんとした謝罪・反省とか認められて、許しが与えられるというイメージです。「許してやるけど、今度やったら承知しないぞ」などとも言いますが、それでは本当に心から許したのかは疑問のような感じですね。許可や免許は実際に取り消されることがあります。この『許す』という字は、日常的によく使われていて、『ゆるす』の中では最も馴染みがある漢字です。

『赦す』は、恩赦、赦免などの言葉に使われています。恩赦は何か特別な祝い事があったときに罪を赦されるということです。『許す』よりは、赦したいから赦すという感じが強くなっていると思います。何かの理由を見つけて、「めでたいから」人を赦すという感じでしょうか。謝罪などの直接的な理由は必要なくなります。人を赦したときの心地よさ、解放感を味わった人だけが行えるようになることなのでしょう。

『恕す』は、ほとんど使われませんが、『寛恕』という言葉があります。寛い心で人を恕すという意味です。この『恕す』になると、もともと人の中に罪や悪を見ないのだろうと思います。人を見る目が基本的に優しく、簡単には人の批判や非難をしない、とても上質な人権感覚の持ち主ができることなのだと思います。『人は悪くない、過ちや間違いを犯すことはあるけど、心底から悪い人はいない』という感じの心持ちにならないとできないのだろうと思います。もはや恕すための理由も必要ではないことなのでしょう。人の中に悪や罪を見ないのですから。

主人公の道歩き続ける中で、同じ『ゆるす』でも、『許す』→『赦す』→『恕す』と質が変わってくるのでしょうか。『人は反省したから許されるのではない。許されたときに人は初めて反省するのだ』という言葉も聞いたこともあります。許しのパワーがわかります。しかし、『ゆるす』こと自体が大変難しいことなので、大人でもなかなか簡単にはできません。意外と子どもや若者の方がたやすくできることなのかもしれません。どちらにせよ、人生はチャレンジの連続です。挑戦してみる価値はあると思います。どうか夏休み中、心にとめておいて、機会があれば挑戦してみてください。一回でも『ゆるす』ができたなら、本当にすごいことだと思いますよ。では、頑張って、願生って(あきらめないで)、顔晴って(笑顔になって)いい夏休みにしてください。

お知らせ

今年度は、8月13日(火)から16日(金)までの期間が学校閉庁日となっており、土・日・祝日と同様、職員は不在となります。何か連絡が必要なときは、江津市教育委員会(52-7495)にご連絡ください。よろしくお願いたします。